

No. 1 2 7

2008
Oct.
Nov.

10
11

KSKR

きずな

THE KIZUNA

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

奈良県自閉症協会
ニュース

発行人： 河村舟二
編集人：奈良県自閉症協会
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町 84-10
購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

これからの自閉症支援対策

平成20年10月4日・5日、東京都千代田区麹町にある弘済会館で平成20年度都道府県・政令指定都市自閉症協会役員連絡会が行われ、奈良県自閉症協会から河村が参加してきました。一日目は、石井哲夫会長による中央情勢報告と厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課の長井浩康氏による1. 社会保障審議会障害者部会の状況について、2. 障害児支援の見直しに関する検討状況について、3. 発達障害者支援推進についての行政説明および、文部科学省特別支援教育課特別支援教育調査官(知的障害・情緒障害・発達障害教育担当)の石塚謙二氏による特別支援教育の動向・法律改正など

.....
についての行政説明がありました。これらの中で気付いたことは、今の社会福祉の構造改革として取り組まれている自閉症対策(法律の中では自閉症=発達障害という言葉で吸収)は、まだまだ実際の支援は乏しく理念先行である。法律は大切であり、これがあるから地方の行政が動けるのであり、今回の発達障害者支援法の見直し、および、障害者自立支援法の見直しを注目したい。ただ、これからは地方行政のありようが問われる時代であり、各部局に自閉症に対する認識をいかにしてもらおうかにかかっているようである。これまでのような訴えて陳情しての時代ではない。具体的事例を取り上げ、きちんとしたデータで示し、一つの事実をつかみ、わかりやすく相手に説明していくことが必要である。特に自閉症は分かりにくい障害であり、支援のニーズや内容も一律ではないので、奈良県ではこのことは重要である。以下

.....
日本自閉症協会が取り組む内容、国の各機関等に要望している内容には次のようなものがあることをお知りおきください。(河村)

○「自閉症にかかわる社会的対策を考える」日本自閉症協会会長 石井哲夫
米国における自閉症対策法および世界自閉症啓発デー(4月2日)発足などの動向から自閉症政策の再認識を求めたい。障害者自立支援法における「自閉症問題」・入所および通所施設における自閉症対策を訴えたい。「発達障害者支援法」の施行、「特別支援教育」の推進における、自閉症にかかる問題認識を共有して欲しい。その理由の一端として、①発達障害者支援センターにおける相談支援の実態において、自閉症の人に関わる家庭・社会生活困難な事例が多いこと。

.....
自閉症の人の居場所が確保できない事情にも拘わらず、施設政策が後退していることなど、放置しかねる切迫している状況を訴えたい。

第1回：法制化、共済、自閉症支援センター (石井、石丸、奥野)

.....
長らく親たちが自閉症である我が子についての社会的支援を訴え、社会的活動体として社団法人日本自閉症協会をつくってきた。その間、社会の障害福祉制度は進んできたが、殆ど自閉症を理解し、その制度に組み込むには至らなかった。現在緊急に実現を求めている要望として第1回には、下記の4点をあげる。

- ①自閉症に関わる運動の歴史(資料1参照)から、法・制度(福祉・教育など)に「自閉症」という障害概念を明示する。(石井)
- ②現在見直しをしている障害者自立支援法におい蹴る障害程度区分や強度行動障害に関わる支援費への特段な配慮を行う。

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎日発行

- ③親が始めた共済保険制度の内容を協会事業として継続する。(石丸)
- ④現在の自閉症施設機能を改革再論し、自閉症支援センター機能とする。(奥野)
- ⑤発達障害者支援センターの現状の理解と事後機能の整備を図る。(石井)

第2回：早期介入・就学対策

- ①自閉症の人の生涯を見わたして、家族だけでは対処できないばかりか、早期の対応の誤りによって、青年期以降に多くの問題を引き起こしていることがわかった。したがって、早期発見、早期療育の必要性を認めるが、これはいずれも家庭介入を必要とする。この適切な対策を求めたい。
- ②特別支援教育(学童期から高校大学に至る教育的支援)一般の教育における自閉症児への積極的な対応を求めたい。中でも特別支援教育と関連して、とくに自閉症に特化した支援教育制度を進めて欲しい。中学校以降の障害児への就労支援教育を改善し、自閉症児に適した社会化を進める就労前支援を行ってほしい。
- ③不登校児も含めて、小学校から大学に至る全生活支援に関わる就学期においての自閉症児の余暇生活、ならびに家庭・学校では対応しきれない家庭内過剰緊張状

態に陥った事例についての予防的対策と緊急対応方法を検討する。また、家庭・学校では対応しきれない場合の通所療育施設、入所施設利用法の整備や、そこの研修受け入れが進むように機

第3回：就労の支援・社会生活支援

- ①就労前支援を含め、就労時における支援体制を雇用側、支援側双方について検討する。就労体験できる場の確保を検討するとともに就労後の生活相談、居場所の確保を要望したい。
 - ②就労後の生活相談、居場所の確保(全てを職場に任せない)などの福祉政策を検討する。その他出来れば司法と関連した福祉政策も検討する。…以下省略
- ※資料「平成20年度予算に関する要望書」「自閉症をはじめとするPDDの子どもへの発達支援」「自閉症に対する障害者自立支援法の問題点」

(以上は自閉症協会役員連絡会資料より)

講演会後のメールによる質疑応答

Q 発達障がいの方は、他人の気持ちをくみとることが苦手とのことですが、自分の娘さんの気持ちをくみとれるまでのご苦労もあったと思います。小さいころはかなり怖い顔で怒っていたとおっしゃっていましたが、もしよければ気持ちをくみとれるようになったきっかけなどを教えていただきたいと思います。

☆ 回答(中谷さんより)

質問の内容の発達障がいの方は、他人の気持ちを汲み取ることが苦手という部分ですが、自閉症は症候群であり、すべての人がそういうことではありません。私自身はどちらかという人の顔色や声のトーンなどに敏感なタイプで、人の気持ちを汲み取ることはできるほうです。娘が小さいころ怖い顔をして怒っていたという部分は、娘の行動障がい激しく、まだ自閉症児の育て方を学び始めた時期は自分の感情を律して情報提供を冷静にすることを自分自身が獲得できていなかったからです。

Q スケジュール表(日程・1週間・1ヶ月)の有効性について就学期の児童への活用例はよく聞きますが、成人で知的のない発達障がいの方には有効と考えられるの

でしょうか?スケジュール表を成人に対して作る場合の注意点を教えてください。

☆ 回答(中谷さん)

スケジュールについてですが、成人で知的障がいのない方にも有効です。時間軸のずれやフラッシュバックの問題で、認知面で過去、現在、未来が入り混じってしまう場合が少なくありません。予定変更の受け入れなども基本的には脳の中だけでするよりも、書き出し、変更部分にそって、他の活動の組み換えなどをすると、わかりやすくなります。ただ、やり方を指導でしていく必要性はあるかとおもいます。なぜなら、発達障がいの成人の方は、自分なりの行動の習慣性をもっておられますので、新しいシステムを使ってもらうときには、どなたかの指導がないと難しいかとおもいます。

*講演会は時間が足りず、質疑応答の時間を取るが出来なかった為、メールやFAXでの質問を会場にてお伝えしておりました。今回メールの質問を頂き、中谷さんから回答頂きましたので紙面にて掲載させてもらいました。

2008年度独立行政法人福祉医療機構助成「自閉症児者の自立生活・就労支援事業」

主催 特定非営利活動法人奈良県自閉症協会 <http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

後援(予定) 奈良県発達障害支援センター でああ～

第3回 講座のご案内

○日時 平成20年 10月25日(土) 9:30受付

10:00~16:00

○会場 奈良県中小企業会館 4F 大会議室

奈良市登大路38-1(近鉄奈良駅①番出口よりすぐ)

TEL 0742-26-6602

<http://www.pref.nara.jp/syoko/kaikan/>

○参加費 500円 定員150人

○申込み不要

当日受付致しますので直接会場へ起し下さい。

○問い合わせ

FAX 0744-33-4755

m-ueshima@k2.dion.ne.jp 上島

午前講義

10:00~12:00

「あなた(親・保育士・
教師・支援者)が変わる
と子どももかわる!!

パート2」

講師 岩坂 英巳 氏

(奈良教育大学

特別支援教育研究セン

ター・センター長)

午後講義

13:00~16:00

「お父さんの[そらま
め式]自閉症療育」

講師 藤居 学 氏

(そらパパ)

[http://soramame-shiki.](http://soramame-shiki.seesaa.net/)

[seesaa.net/](http://soramame-shiki.seesaa.net/)

○講師紹介

岩坂 英巳(いわさか ひでみ)先生

・精神科医師

・奈良県立医科大学卒。同医科大精神医学教室在籍中に、カルフォルニア大学ロサンゼルス校児童精神科に留学し、ペアレント・トレーニングやソーシャル・スキル・トレーニングを学ぶ。奈良県心身障害者リハビリテーション精神科医長などを経て

平成16年から奈良教育大学教育臨床教授。

奈良教育大学特別支援教育研究センター <http://www.nara-edu.ac.jp/CSNE/csne-index.htm>

藤居 学氏(そらパパ)

外資系企業で働く30代の父親で、認定心理士でもあります。

(お父さんの[そらまめ式]自閉症療育) そらパパさんのブログ <http://soramame-shiki.seesaa.net/>

自閉症や発達障害のお子さんを持つお父さんを応援するブログです。応用行動分析(ABA)、TEACCH、PECS、認知心理学の知見を活用し、普段家にいない父親がどのように子どもの療育に関わり、家族の活力のために何をすべきか、そんなことを考えていきたいと思えます。あわせて、「日々の生活がそのまま療育」になるような、頑張らないけど効果は高い、そんな療育プログラムの開発を目指します。

2008年度独立行政法人福祉医療機構の助成による
自閉症児者の自立生活・就労支援事業

**自立の為のソーシャルスキル・
料理教室参加者募集**

料理教室を下記の日程で開催します。料理を作ること、
食べることが大好きな人は是非、ご参加下さい。

日時 12月14日(日) 10:00~15:00

場所 奈良市総合福祉センター 2F料理教室

〒631-0801 奈良市左京5丁目

TEL (0742) 71-0770

日程 10:00~ 受付開始 2F料理教室

10:10~ 講師の紹介 自己紹介

10:30~ 調理開始

(お好み焼き&デザートの手配)

12:00~ 食事 片付け 反省会

15:00 解散

募集 12名(参加希望者の多いときは主催者が選考。
保護者が講演会、勉強会参加者優先します。)

参加費 材料費代

申し込み・問い合わせ

光野 FAX・TEL 0742-71-4088

nahi-kon@m3.kcn.ne.jp

*参加希望者の名前と年齢(学年)・性別・連絡先(FAXの方は〒番号、住所必要)保護者名を書いて
FAXかPCメールで申し込んでください。尚、FAX・PCメールで送れない方は電話で連絡してください。

締め切り 11月20日(木)

締め切り後に、参加決定者に、持ち物等を連絡します。

主催：特定非営利活動法人奈良県自閉症協会

☆事務局から

☆「ニイハオ。みんな同じ、どうぞ、宜しくお願いします。」という懇談会

次のような案内を頂きました。参加可能な方はやまびこまで連絡をお願いします。…「お話を聞かせ下さい。私の話もどうかお聞き下さい。自閉症のわが子のことを」
中国で広汎性発達障害・自閉症のお子さんがおられる、お母さん、お父さんたちが自分たちで、母子療育訓練センター、自閉症児教育センターを創設されました。今回は岐阜県の日中友好美谷星星雨等福祉施設学芸文化交流子協会の招聘で4カ所の施設の理事長、園長、両親等が来日されます。

この方達は10月30日に立命館大学での講演会に向かわれる途中、天理市で一泊されます。この機会に中国での実情もお聞きし、私たちのことも話し、草の根の交流が出来ればと思います。

お忙しいとは存じますが是非お時間を作っていただき、ご参加下さいますようお願いいたします。

日時：平成20年10月28日(火)午後 7:00~9:00

場所：天理市ボランティアセンター 出席者：西安市・上海市・青島市・アモイ市から各施設の関係者・東京学

芸大学教育学博士 呂ショウトン先生・通訳・第三美谷学園園長井上先生 ※ご参加下さいます方はNPO やまびこ事務局 0743-67-0906 までご連絡下さい。

☆「介護の日」記念イベントご案内、およびご協力をお願い

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。このたび、厚生労働省が高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日として11月11日を「介護の日」とすることを決定しました。そこで、県内の専門職団体やNPOが構成団体となって奈良介護の日実行委始を組織し、奈良の介護家族を応援するための催しを下記のとおり開催します。つきましては、この催しの趣旨にご賛同のうえ、ぜひとも参加や応募の呼びかけにご協力いただけますようお願い申し上げます。 敬具 記

- (1)「奈良介護大賞」募集…10月20日応募締め切り
- (2)「介護の日」記念講演会…11月11日(火)学園前ホールにて
- (3)「やすらぎホームコンサート」…11月末まで受け付け中
- (4)関連企画:「ケアする人のケアセミナー」12月6日(土)

奈良県社会福祉総合センター・12月14日(日)奈良市男女共同参画センターあすなろ・実行委員会構成団体(順不同)奈良弁護士会/奈良県司法書士会/奈良県社会福祉士会/奈良県介護福祉士会/(社)認知症の人と家族の会奈良県支部/食事サービスネットワーク奈良/なら地域ケア研究会/(特活)奈良NPOセンター/(財)たんぽぽの家ほか

問い合わせ先 奈良介護の日実行委員会事務局(担当/酒井)〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 財団法人たんぽぽの家内 Tel0742-43-7055 Fax0742-49-5501
Email carecare@popo.or.jp

奈良介護大賞募集 支える人を応援します 主催:奈良介護の日実行委員会

高齢化がすすむなか、介護は誰にとっても身近なものとなってきました。つらいもの、苦勞の多いものとして語られがちな介護ですが、誰かの生命や生活、人生を支えることは、深い喜びや大きな学びをもたらすこともあります。そして、介護をする人を支えることによって周囲の人をもまた、身近な人を気にかけて、支える力を育てていくことができます。私たちは、このように介護をとおして地域全体に広がっていく支え合いの文化こそが、未来に残せる大きな財産だと考えています。そこで、地域

社会における支え合いの文化づくりにつながる介護の実践を募集し、「介護の日」記念イベントの場において顕彰します。本企画をとおして、奈良県の地域性や文化に合ったケアの仕組みについて学び合うことで、老いても、病気になっても、障害をもっても安心して暮らせる社会をめざしていきましょう。応募案内必要な方は奈良県自閉症協会事務局に連絡ください。

☆NHKハートフォーラム。特別ではない特別支援教育～家庭・学校で発達障害の児童生徒に何ができるか～2年日に入った特別支援教育。発達障害の子供たちに現在どの様な支援がなされているのか。その現状と課題を考えながら、家庭と学校での具体的な取り組みで成果を上げている教育現場からの実践報告です。

日時:平成20年12月6日(土)10時30分～16時30分 受付9時30分～

場所:神戸市勤労会館

内容:午前、竹田契一「2年目の特別支援教育と発達障害への関わり方～家庭・学校でしていいこと、わるいこと～」午後:後野文雄「ニーズある生徒への具体的指導～プロジェクトS 白糸中学校の挑戦～」銚山智子「地域と共にチームで支援～特別支援学校のセンター機能

～」

申し込み:〒540-8501 大阪市中央区大手前4-1-20

NHK厚生文化事業団近畿支局

往復はがきに住所・氏名・年齢・電話番号を書いてお申込みください。(返信用葉書宛名面にも住所・氏名を書いてください。)一枚で一人入場できます。(中学生以下の方は入場できません。)お申込みが多い場合は抽選でご招待いたします。(開催日の10日前までにご連絡いたします。)参加費は無料です。※フォーラムへの参加申込みで頂いた個人情報、結果に関する連絡のみに使用いたします。それ以外に使用することはございません。

2008年11月21日(金)必着。

問い合わせ電話 06-6937-3412

☆やすらぎホームコンサート。

奈良介護の日実行委員会

ご家庭にやすらぎのひとときをお届けします。

●やすらぎホームコンサートとはご家庭で介護をしていると、コンサートに出かける時間がとれなかったり、ご家族のことが気にかかって心おきなく音楽を楽しめないこともあります。やすらぎホームコンサートは、音楽家

がボランティアとして介護をしているご家庭に伺い、やすらぎのひとときをお届けするコンサートです。

♪約30分のコンサートです♪お申し込みされた方の費用負担はありません。♪お届けする場所は奈良県内に限ります。

●たとえば、こんなコンサートをお届けします

◎介護や介助が必要な方とごご家族に、お好きなジャンルの音楽やご家族の思い出の歌を織りり交ぜたコンサートを。◎介護家族が集まる会合などで、心が癒され元気になれる歌や音楽を。

◎いつも介護をしている家族に「ありがとう」の気持ちを伝えるプレゼント・コンサートを。申込書事務局にあります。

主催およびお問い合わせ先:奈良介護の日実行委員会 〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 財団法人たんぽぽの家内 TEL0742-43-7055 Fax0742-49-5501

メール CareCare@popo.or.jp

☆中央善意銀行助成事業「LDヘルパー養成講座」

受講生募集のお知らせ…LDヘルパーとは、LD(学習障害)をはじめ、注意が散漫な子どもたらや自閉的傾向があったり、場の空気が読めずどこかピントのずれている受け

答えをってしまう子どもたちなど、いわゆる発達障害の子どもたちに、直接・間接に支援をする人たちのことです。この講座では、幼児から中学生ぐらいの発達障害のある子どもたちが、どのように困ったり、どのような行動を取ったりしてしまうのかを知ることにより、支援の方法を学んでいただけたらと思います。

公開講座 発達障害の子どもたちを理解するために～全体的理解と特性理解～天理大学人間学部 教授・教育学博士 千原雅代先生

日時；9月28日終了。第1回：学校における発達障害児たちへの支援～学校の中から見て～宇陀市教育委員会指導主事 北井晴雄先生

日時；10月26日(日)10時～12時

場所；田原本青垣生涯学習センター(田原本町)

第2回：様々なケースにおける指導とサポート～誰をサポートするのか～天理市教育委員会 巡回相談員 田部井紀美子先生

日時；11月30日(日)10時～12時

場所；川西文化会館サークル室(川西町) 第3回：凧に描いた思いを大空に舞い上げる「花とみどりの凧揚げ大会」～共に楽しみ考える～実習奈良学習・発達支援センターアートクラス指導員ら

日時；日程等未定

場所…奈良県フラワーセンター

第4回LD理解講座(タイトル等は未定)～大阪教育大学名誉教授 竹田契一先生/舞鶴市白糸中学校長 後野文雄先生(予定)

日時；2月1日(日)10時半～16時

場所；ならまちセンター(奈良市)

第5回：もし、あなたがその場にいたら…～ワークショップ～まとめ 奈良LD研究会会員、奈良アセスメント研究会会員、特別支援教育士らによる

日時；2月15日(日)10時～12時

場所；川西文化会館サークル室(川西町) ※日時、場所、内容等は多少変更する場合があります。奈良県発達障害支援センターでいあ～のホームページなどをご確認ください。公開講座について：申し込み不要 定員200名

参加費1人500円(資料代等)5回の養成講座を受講される方：申し込み必要募集人員40名 5回分の費用3000円。申し込み方法：公開講座時にお渡しする申し込み用紙に所定事項を記入し、提出または郵送してください。5回の養成講座の定員：40名※全6回のうち5回以上受講された方には修了証を発行します。(但し、公開講座、第3回、第5回は必須となります) 主催：川西

町LD研究会。協力：奈良県発達障害支援センターでいあ～後援：奈良県社会福祉協議会、天理市教育委員会、川西町教育委員会、田原本町教育委員会、三宅町教育委員会、桜井市教育委員会、橿原市教育委員会(以上予定) 問い合わせ：電話0745・44・1717(有)結崎アカデミー前川孝士まで

☆11月1日JDDネット奈良会議：郡山福祉会館予定

2009年度 TEACCH プログラム研究会京都支部

1月例会

☆高機能自閉症、アスペルガー症候群の理解と支援

平成21年1月24日(土) 13:30～16:00

(受付: 13:00～)

京都教育文化センター ホール

(2階・360名収容・裏面の地図をご参照ください)

講師 内山 登紀夫 氏

(児童精神科医: よこはま発達クリニック、大妻女子大学人間関係学部教授)

*会場がいっぱいになった場合、入場をお断りすることもあります。ご了承ください。

【問い合わせ先】TEACCH プログラム研究会京都支部 事務局: teacch_kyoto@yahoo.co.jp

2009年度支部総会 と 1月例会のお知らせ

会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

さて、この度は1月例会および2009年度総会のご案内させていただきます。

2009年度当初を飾る例会は裏面のご案内の通り、内

山登紀夫先生にご講演を戴くことになりました。高機能自閉症やアスペルガー症候群の障害理解や支援に関わり大変興味深いテーマのご講演ですので、会員の皆様のご参加はもちろんのこと、お近くの皆様にもご紹介いただきお誘い合わせの上ご参加頂ければ幸いです。

2009年度総会につきましては1月例会終了後に(4時15分より4時45分)、引き続き開催させていただきます。

なお、2月以降の活動計画については総会終了後、ご案内させていただきます。

【交通手段】

・京阪電車「丸太町駅」

●5番口より徒歩3分

・JR「京都駅」(約30分)

●市バスD2のりば206 熊野神社前下車、徒歩5分

●地下鉄丸太町下車～市バス65, 93, 202, 204 丸太町京阪前下車、徒歩5分

・阪急「河原町駅」(10分)

●京阪四条駅～丸太町駅下車、徒歩3分

●市バス31, 201, 203 熊野神社前下車、徒歩5分

*京都教育文化センターのホームページ <http://www2.odn.ne.jp/kyobun/sisetu.html> より転用させていただ

9月20日(土)大和郡山市三の丸会館で行われた「発達障がいの方への支援についてー親・支援者・当事者としてー」中谷正恵氏(発達障がい児の暮らしをサポートするまーのよろずや主催者)

アンケート結果

■本日の内容はいかがでしたでしょうか?興味深かった点、理解できなかった点があればお書きください。

(教員) なし

(福祉関係者)

・何人かの当事者(児童)と関わっているので、スケジュールとか大変なんだということがわかった。

・大変すばらしかった。

(保護者)

・小さい頃からの支援が大切なんだと改めて強く思いましたし、改めてハッと気付かされることもあり講演会はいいなあと思いました。

・よく理解できた。

・大変わかりやすく勉強になりました。

・内容は画面で説明してもらったので、わかりやすかったです。

・実際に活動されていることを具体的に説明してくれて、役に立ちそう。

・アサーティブネスというものを知れたことは大きかったです。

・参考にさせていただくところがありました。

・現在18才の息子のコミュニケーション力を環境を整えることで少しでも高めていけるよう、取り組みたいです。

・具体的な構造化が写真と解説付きで非常にわかりやすかった。

・ご自身の苦しみ(今まで生活する上で)をわかりやすく伝えて頂いた。又このような解りやすい講演や人々への支援(本当に素晴らしい支援をされています)が発達障害を持っていても可能なのだということが確認できた

・(その他)

・実践から学ばれていることも感銘を受けました。小さい頃からコミュニケーションの練習、弱点を理解してあげることなど、学齢期の親に学んでほしいです。

・自閉の子供たちがカードを使ってスケジュールなどを理解することの意味などよくわかりました。当事者としての成人になってからの告知の意味などもお話していただけてよかったです。

■実践でいかすことが出来そうですか

(教員)

・カードによる伝達などこれからも感情的にならず行えること改めて良さ、必要さを再認識しました。

(福祉関係者)

- ・自閉症を理解し対応したい。
- ・こだわりも大事
- ・様々な事例が大変役に立ちます。

(保護者)

- ・自発的表出の話で、「母だけわかってヘルパーさんに見てもらった時にはわからない」という話をおうかがいしていて、うちもそうなのかもしれないと思っていました。「母だけにわかる」のではなく母以外の人に関わってもらった時にその方達にもわかるように、日頃から気をつけて子供が自発的に表出できるようにしていきたいと思いました。
- ・スケジュール、カードを作る。
- ・スケジュールを作りたいと思います。まだ3才なので写真中心でしたいと思います。
- ・視覚支援のやり方を工夫していきたいと思いました。写真などの使い方など。
- ・自立への援助について参考になりました。
- ・視覚化の点等

・コミュニケーション支援のあり方について

・解釈が変われそう

(その他)

・一生を通じての支援自分の意志を表出できるようにするための工夫の大切さを感じました。子供にもいかせたらと思います。

■今後どのようなテーマの勉強会に参加されたいと思いますか？

(教員)

・LD、ADHD

(福祉関係者)

- ・難病や精神障害等
- ・高機能自閉症、アスペルガー

(保護者)

- ・どんなことでも勉強していきたいと思っています。
- ・就労にむけて
- ・遊び等を知りたいと思います。
- ・時間があれば参加したいです。
- ・今回のように体験談のような話を聞きたいです。
- ・同様のものをもう少し
- ・感覚統合
- ・ソーシャルスキル ・RDI

◎えじそんくらぶ奈良『ポップコーン』 主催 関係行事
すべての子どもが輝くために…

ポップコーン平成20年度 公開講座

『発達障害の理解と対応

～脳科学研究を活用した支援へ～』

日時 平成20年11月16日(日)

時間 13:30～16:00

受付開始 13:00

場所 生駒市中央公民館 サンホール

講師：高山 恵子 氏

※ NPO 法人えじそんくらぶ代表、臨床心理士

文科省「中央教育審議会」委員、

厚労省「発達障害者施策検討会」構成員

NHK 放送番組審議会委員 他

参加費(資料代として)

一般 ￥1,000 会員 ￥500 えじそん会員)

定員：400名

事前申込不要！当日直接会場へ♪

☆ 奈良教育大学 平成20年度特別支援教育支援員養成講座の「推薦講座」指定

平成20年10月27日

理事 各位

近畿ブロック選出理事 大久保 尚 洋

第51回理事会速報

平成20年10月25日午後2時00分より航空会館において第51回理事会が開催された。

今回の理事会は、第1号議案 世界自閉症啓発デーへの取り組みについて、第2号議案 新規入会者についての審議が主なもので、以下、主な議論は下記のとおりの内容であったことを報告いたします。

出席理事(委任状4名)

石井会長、須田副会長、山崎副会長、石丸副会長、大平常務理事、太田理事、市川理事、河島理事、三苦理事、奥野理事、上田理事(北海道)、深瀬理事(東北)、高山理事(関東)、白水理事(関東)、野尻理事(関東)、杉山理事(関東)、水野理事(東海)、阿部理事(中国)、横田理事(四国)、岡田理事(九州)、大久保(近畿)、

石井会長の挨拶の後、議事録署名人に太田理事、野尻理事が選任された。

第1号議案 世界自閉症啓発デーへの取り組みについては、10月5日に関係各団体に記念行事取り組みの連携

準備の呼びかけを行い、呼びかけ団体としてアスペ・エルデの会、全国自閉症者施設協議会、日本児童青年精神医学会、日本自閉症スペクトラム学会、日本発達障害ネットワーク、日本自閉症協会の6団体であったが、日本児童青年精神医学会はオブ参加、アスペ・エルデの会は欠席で会議が開催されたと報告があり、会議で示されたシンポジウム等の企画についての説明があった。厚生労働省の対応としては、1600万程度の予算規模として計上を予定しているが、状況は流動的である。来年の4月2日はウィークデーでもあるため、自閉症啓発週間と位置づけて行事を行われる可能性について報告がなされた。予算が確保されれば再来年以降は相当規模の行事になる予定であることが示唆された。

これに対し、岡田理事より、イベントとして取り組む場合には地方での取り組みにタイムリーに実施できるよう周知徹底して欲しいと要望があった。

また、大久保より、世界自閉症啓発デーそのものを周知徹底させるよう要望した。阿部理事からは、広島では既にチラシを30000部配布予定として取り組みが進められていることに加え、JDDネットとの連携も視野に入れ活動していると報告された。

これに対し、事務局から自閉症協会の方針が決定すれば、

た。

主な議論としては、前回開催地の熊本の岡田理事より、世界を視野に入れ、「自閉症とは何か」というようなテーマはどうであろうかとの提案があった。

深瀬理事より、障害者自立支援協議会に光を当てたテーマや分科会との提案がなされた。

水野理事からは、国会議員を招致する場合は前もっての準備を怠らないことと家族として崩壊している家庭も念頭に入れ、もう一度、親子、家族で自閉症を考える必要性があり、取り組んではどうかとの提案があった。

阿部理事からは、権利擁護等の法案の整備に関するテーマについて提案がなされた。

テーマに関しては、和歌山県自閉症協会で見解をまとめて、協会本部に報告後、常任理事会を経て、次回理事会で決定する予定として確認された。

続いて、事務局の人事異動について説明があり、本年7月末に飯島氏と9月末に市川氏の2名の退職者があり、10月1日より事務補佐員として小松瑛子職員を採用したとの報告があった。

この他、障害者週間に関するテレビ放映についての報告があり、理事会は終了した。

平成20年10月27日

内閣府として周知徹底させていただく準備があるとの回答があった。

第2号議案 新規入会者については、協会本部に本年度3名の入会者があったことと氏名が報告され、承認された。

議案に対する主な意見は、加盟団体に加入した会員についての承認は必要ないかとの問いに、本部加入の会員だけで問題ないとの答えであった。また、承認するに当たっては氏名だけでなく、詳細についての報告が必要であり、場合によっては紹介者等の報告も検討するよう要望があった。

続いて、その他の事項として、高山理事より次期ブロック選出理事の選出方法について提案があり、議論の結果、平成21年1月末までに9名のブロック選出理事候補の報告を受け、ブロック理事選考委員会(仮称)を立ち上げ、3月開催予定の理事会に残り5名のブロック選出理事候補を加え計14名の理事候補を報告し、決定すると決した。

続いて、次期和歌山で開催予定の全国大会テーマに関する議題になり、和歌山県より提出した6件の意見と上田理事提出の意見の説明を大久保が行い、議論が交わされ

近畿ブロック役員 各位

近畿ブロック選出理事 大久保 尚洋

第3回共済事業委員会報告

平成20年10月25日(土)東京で第3回共済事業委員会が開催された。

出席者は、石井委員長、石丸副委員長、奥村委員、水野委員、横田委員、上田委員、野尻委員、大久保の8名の委員大平事務局長、ASJ事務局(鈴木和子、横山、鈴木和代)と協会事務局、ASJ事務局で、(委任状6名)

石井委員長の挨拶の後、石丸議長選出、議事録署名人に横田委員、野尻委員を選出した。

議題

第1号議案 平成19年度事業報告・決算報告について

第4回～第6回共済事業運営委員会と第2回共済事業委員会開催の会議報告がされ、平成20年度より掛金の減額と給付内容変更が実施されたことの報告と新たな運営委員に白水委員、野尻委員、新保委員の選出が報告され、承認された。

第2号議案 平成20年度事業内容(案)・予算(案)

について

事業計画案については、運営体制等会議開催回数と給付審査委員会(毎月開催)と20年度の加入目標を4550名とすることと加入者数が5000名を超えるとAIUの団体割引率がアップする可能性について示された。

予算案については、本年度から補償内容拡大が実施された結果、大幅な給付増加となっている現状が報告され、採択された。

第3号議案 共済事業加入資格について

(1) 現行規定の変更 (2) 本人加入について (3) 親子加入及び親子加入に対する割引について

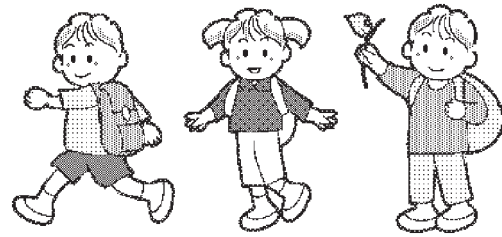
(1) については、組織変更に伴う自閉症協会正会員となっているのを自閉症協会正会員と都道府県政令指定都市の自閉症協会正会員とするに変更。

(2) については、保護者の高齢化やなくなる場合も想定し、本人の自主性を尊重する意味でも認めるべきであり、これに伴う課題については、専門家の招致や調査研究、AIU社との連携と指導の下、適切な対応が必要であると確認した。

(3) については、本人の申告により親子加入と申告されれば親子加入と認めるが親子加入に対する割引は適用しないが、子ども2名以上の割引は適用する。

以上、3項目について承認した。

この他、本人の理解の限界と契約意向確認について、関連法令との整合性や監督庁の指針の動向について議論され、法的根拠の整備を含めて課題への取り組みの必要性が確認された。同時に専門家の指導についても議論され会議を終了した。



2008年10月8日

各都道府県・政令都市自閉症協会会長 各位
各都道府県・政令都市自閉症協会事務局長 各位

社団法人日本自閉症協会

会長 石井哲夫
前略

いつもお世話になりありがとうございます。

さて、添付の日程でペアレント・メンター養成講座(フォローアップ講座・サポートブックリーダー養成講座)東京会場を開催いたします。受講条件は「ペアレント・メンター養成事業基礎コース修了者」となります。貴協会において、該当の会員の皆さまへご案内をいただくとありがたいです。どうぞよろしく願いいたします。

草々

2008年10月8日

ペアレント・メンター基礎講座修了者各位
社団法人日本自閉症協会
会長 石井哲夫

フォローアップ講座・サポートブックリーダー養成講座
受講者募集のご案内

日本自閉症協会では、全国各地のペアレント・メンター基礎講座を修了された皆さまを対象に、以下の日程で、フォローアップ講座およびサポートブックリーダー養成講座を開催いたします。受講希望の方は、受講申込書(一人一枚)にご記入の上、11月24日までに、メールもしくはFAXにて協会宛、お申込ください。定員をオーバーした場合は、抽選とさせていただきます。

◇フォローアップ講座

日時: 2009年1月10日(土)

午前10時~午後5時30分

場所: 日本財団(東京・虎ノ門)2階会議室

受講料: 3,000円

昼食代: 800円

受講資格: ペアレント・メンター養成「基礎講座」修

了者

定員： 30名

◇サポートブックリーダー養成講座

日時：2009年1月11日(日)

午前10時～午後12時30分

場所： 日本財団(東京・虎ノ門)2階会議室

受講料： 3,000円

受講資格：

ペアレント・メンター養成「基礎講座」修了者

定員： 30名

*受講料および昼食代は、当日、会場にてお支払いください。

【会場】日本財団 会議室 (東京都港区赤坂1-2-2)

<http://www.nippon-foundation.or.jp/org/profile/address.html>



自立支援法の応益負担の矛盾を訴え一斉提訴

2006年、障害者福祉に対する財政削減をねらいとし、その根幹としての応益負担の導入を核とする「障害者自立支援法」がスタートしました。これにより障害者に負担がのしかかってしまい。「こんなじゃ生活できない」と、堪忍袋の緒を切らした全国の仲間たちが、いま、裁判を起こしました。皆さんもこのことをお知りおき下さるとともに、協力して欲しいということで、奈良県自閉症協会にも日頃お世話になっている青木弁護士から以下のメールが届きました。(河村)

みなさん こんにちは

先日の報道でご存じと思いますが、10月31日、障害者自立支援法成立から3年の日、原告29名が応益負担は違憲違法だとして、利用料負担の取消や免除の確認、過去の負担料の返還などを求めて、全国8カ所で一斉提訴をいたしました。

応益負担は、障害のある人が社会生活を送る上で必要不可欠なサービスについて、負担を負わせるものとして、障害があろうがなかろうが、自ら普通に生活するという人格の根源に関わる権利の侵害であるとして、憲法13条、14条、25条に反するとともに、権利条約の求める合理的配慮義務違反でもあるとして、障害者自立支援

法の立法行為自体を問題にしていく訴訟になります。

ぜひ、この訴訟を支援していただくとともに、今後、第二次、第三次と、原告を全国各地に広げていきたいと思っておりますので、訴訟を広げる活動にもご協力いただければと思います。

とりあえず、全国組織としての勝利をめざす会が27日に結成されました。

<http://www.normanet.ne.jp/~ictjd/suit/>

今後、12月にかけて、各地での提訴報告とめざす会の結成をしていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

問い合わせやご要望がありましたら、当面は、弁護士青木佳史までいただければ、各地に繋ぎたいと思しますので、よろしくお願いたします。

大阪市浪速区戎本町1-9-19 酒井家ビル5階

きづがわ共同法律事務所

(Tel 06-6633-7621 FAX 06-6633-0494)

弁護士 青木佳史

k3802@skyblue.ocn.ne.jp

<http://www.kizugawa-law.jp/>

平成20年 月 日

フォローアップコース等(サポートブック・リーダー養成講座)受講申し込み書

社団法人日本自閉症協会

会長 石井哲夫様

社団法人日本自閉症協会 支部

受講者氏名:

日本自閉症協会の平成20年度事業「自閉症の人たちのためのライフサポート事業(ペアレント・メンター養成講座)」の受講を申し込みます。

○氏名(年齢) _____ ()

●基礎講座(ベーシックコース)の修了について

受講時期 年 月 日 ~ 月 日 会場:

にて二日間にわたり受講し修了をしています(19年度に受講の場合は修了の予定)。

○連絡先住所・電話ならびにファックス番号・E-Mail アドレス

住所 _____

電話番号 _____

Fax 番号 _____

メールアドレス(パソコン) _____

○お子様の氏名・性別・年齢・所属・きょうだいの有無

名前 _____

性別 _____

年齢 _____

所属 _____

きょうだいの有無 有 ・ 無

父 母 兄 姉 弟 妹 祖父 祖母*同居の家族に○をしてください。

○支部での担当分野(例:相談担当、例会担当、キャンプ担当など)

参加希望講座 (受講を希望する講座に○印をつけてください。)

() 平成20年1月10日(土) フォローアップ講座

() 平成20年1月11日(日) サポートブック・リーダー養成講座



親子の中長期計画を策定しよう!

この計画表は成人部会で石川さんが提示されたものです。(ちいろば園さんの研修資料のようです。)療育部の方も20年先30年先を念頭に入れていちど作成してみてください。漠然と目先の子育てに追われていては将来が見えません。親亡き後の我が家の備えとこんな支援の場を奈良に作り上げたいなど、家族以外に頼らなければならない支援内容などを考え、NPO法人となった奈良県自閉症協会に期待する活動を導き出して下さい。

あ なたとお子さんの10年後、20年後は、どんな生活を送っているでしょう?

日々の生活に追われて中々、そんな先のことを考える余裕はないかもしれません。しかし、時間を止めることもできなければ、今の状態がいつまでも続くわけありません。

ち ょっと、立ち止まって、これから先の親子のありようを考えてみてはいかがでしょうか?

1 <10年後、あなた、あなたのお子さんはどこで、だれと暮らしているでしょう?>

	どこで	だれと(誰の支援を得て)
あなた		
お子さん		

2 <そのために必要な条件は?..>

	物理的条件	経済的条件	肉体的・精神的
あなた			
お子さん			

3 <そのために今、なすべきことは?>

	物理的条件に 対して	経済的条件に 対して	肉体的・精神的 に対して
あなた			
お子さん			

4 <最大の課題は?>

5 <その課題は、障害に起因するもの?>
はい ・ いいえ

6 <20年後、あなた、あなたのお子さんはどこで、だれと暮らしているでしょう?>

	どこで	だれと(誰の支援を得て)
あなた		
お子さん		

7 <そのために必要な条件は?..>

	物理的条件	経済的条件	肉体的・精神的
あなた			
お子さん			

⑧ <そのために今、なすべきことは？>

	物理的条件に 対して	経済的条件に 対して	肉体的・精神的 に対して
あなた			
お子さん			

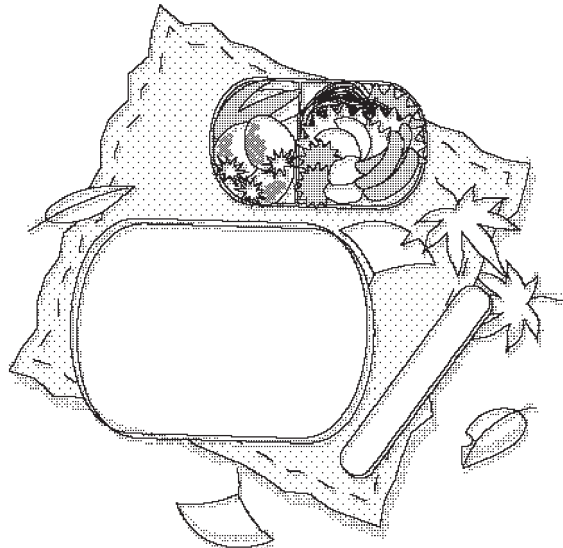
⑨ <最大の課題は？>

⑩ <その課題は障害に起因するもの？>
はい・いいえ

⑪ <お子さんの将来を考えるうえで、あなたの役割は？>

-
-

⑫ <あなたの計画を実現させるためにだれのどんな支援(援助)が必要ですか？>



中国の自閉症児者の親との交流会

「ニイハオ。みんな同じ、どうぞ、宜しくお願いします。」という懇談会の情報を、そよかぜのマネージャーからのお誘いということで、成人部の乾さんから連絡をもらいました。この交流会は10月28日午後7時から天理駅前の天理市のボランティアセンターで行われました。主催は やまびこコンサートでよく知られている、障がい者と健常者が共に充実した時間を共有できるチャリティーコンサートや「よさこいソーラン」の講習・発表会の開催等、広く社会に対して障がい者福祉の啓発に関する事業を行い、障がい者と健常者が共生する社会づくりに寄与することを目的として活動しておられる、特定非営利活動法人やまびこさんでした。

中国の自閉症の親たちが奈良に来られたいきさつは、案内パンフレットによると、…「お話をお聞かせ下さい。私の話もどうかお聞き下さい。自閉症のわが子のことを」

中国で広汎性発達障害・自閉症のお子さんがおられる、お母さん、お父さんたちが自分たちで、母子療育訓練センター、自閉症児教育センターを創設されました。今回は岐阜県の日中友好美谷星星雨等福祉施設学芸文化交流

がるように期待したいものです。中国の自閉症関係者と今後は同じアジアに住む者として、このような交流を深め、自閉症問題解決について共に考え、協力していきたいと思いました。(河村)

子協会の招聘で4カ所の施設の理事長、園長、両親等が来日されます。この方達は10月30日に立命館大学での講演会に向かわれる途中、天理市で一泊されます。この機会に中国での実情もお聞きし、私たちのことも話し、草の根の交流が出来ればと思います。…ということで実現されました。中国西安市・上海市・青島市・アモイ市から各施設の関係者・東京学芸大学教育学博士の呂ショウトン先生・第三美谷学園園長井上先生が来られました。

奈良県自閉症協会からは成人部の堀内さん堀智晴さん河村それに行事でお世話になっている大阪市立大学大学院の傳力(フー・リー)さんが参加しました。

親亡き後の子ども達の暮らしを心配するのは中国の親も日本の親も同じでした。自閉症の親の会は中国では全国的には整っていないようです。しかしTEACCHやABAや太田ステージなどといった療育の情報は入っており、日本と余り変わりはないようです。ただ、まだ自閉症が障害として法的に認められてはなくて、多くの自閉症者も家庭に閉じこめられ、外の社会に出ていないらしく、余り一般社会に出ていないようです。街頭に車いすや障害者を余り見かけなかった昔の日本が思い起こされます。今回の北京オリンピックおよびパラリンピックの開催で、障害児者への福祉といことが中国の社会に広



発行人：関西障害者定期刊行物協会

住 所：〒536-0023

大阪市城東区東中浜2-10-13 緑橋グリーンハイツ1F

編集人：河村 舟二

定 価：100円